



先月は一週ずつ、旧約聖書に出てくる4人の人物の信仰と神様のお取り扱いについて学びました。4人に共通しているのは「神様を信じて従った」ということです。けれども、ヨナさん(18日)を除けば、直接神様からの語りかけを受けたというよりは、心に蓄えた沢山の神様の御言葉によって「神様の喜ばれることが何であるかを知った」といえるでしょう。祈る中で、御言葉を通して示された、といってもよいかもしれませんが、聖書は、読む度、読む人によって、心に残るところが違います。更には、ふと、ある箇所が読みたくなったり、ある箇所が心の中に浮かんだりすることもあります。それが聖書。他の書物と違う“不思議”な書物なのです。この不思議を“聖霊の働き”と言いますが、それはイエス様が私たちと共にいて御言葉(聖書の言葉)をもってクリスチャンとして歩めるように導いてくださるということなのです。この4人の人たちもそうでした、そして正しい人として人々に愛されました。この聖書は今、皆さんにも語りかけようとしています。この夏休み、聖書を開き、あなたの心に御言葉を蓄えましょう。



1日「お誕生会」8月生まれのお友達、お誕生日おめでとう！
祝福のお祈りとお誕生会、プレゼントがあります。皆でお祝いしましょう。

知ってた？ 教会学校の先生5人のうち3人は音楽家！

武田先生はピアノ、市川先生はパイプオルガン、私(村上真理子 ホームページ <http://www7.plala.or.jp/mariko8/>)はフルートが専門です。ところでJ.S.バッハという音楽家を皆さんも知っているでしょう。信仰の厚いクリスチャンでもあった彼にとっては、生涯の全活動が、直接に礼拝を目的とするか否かに関係なく「神様への奉仕」であったといわれています。展覧会などでバッハの直筆の楽譜を見る機会があったら、楽譜の最初と最後を見てみてください。バッハの楽譜の最初には「J.J.」(「主よ、助けたまえ」)、終わりには「SDG」(「神にのみ栄光あれ」と)バッハの神様への讃美を込めたサインがあります。バッハの音楽についての本は沢山ありますが、信仰についての本は稀です。教会(牧師室)にあります。借りたい人、是非どうぞ！

夏休み！教会に夏休みはありませんが、この季節は平日の牧師のスケジュールが不規則に変わります。前回インフォメーションしましたが、教会に勉強しに来るとき(英語、数学、それ以外は内容による！)は念のため、電話してから来てね。

	聖書箇所	あらすじ
1日	(新約聖書) マタイ 13: 1-23	イエス様の語られた、たとえ話 「種まき」
8日	" 13: 24-52	" たとえ話 「天の御国」
15日	" 18: 21-35	「ゆるす」ということ・「ゆるされる」ということ
22日	" 20: 1-16	イエス様の語られた、たとえ話 「ぶどう園の労働者」
29日	ルカ 10: 25-37	" たとえ話 「よいサマリヤ人」